

2023年(令和5年)

第50号

(5月15日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 澤村悦玄
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL(075)762-2211 FAX(075)762-2266

WCRP 日本委員会青年部会発足 50 周年記念 ～京都で開催～



5月13日、公益財団法人世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会は青年部会発足50周年記念を三十三間堂と立正佼成会京都教会で行い、第1部祈りの集いには約100名、第2・3部の記念式典及びシンポジウムには、オンラインを含む約300名の参加がありました。

第1部祈りの集いが正午から三十三間堂で行われ、初めに平和の祈りを捧げた後、杉谷義恭 WCRP 日本委員会青年部会幹事長(天台宗国際平和宗教協力協会専門委員)が導師を務め、法要が行われました。その後、杉谷義純 WCRP 日本委員会評議員(天台宗妙法院門跡 門主)が挨拶を述べ、約1時間で閉式となりました。

第2部の記念式典は会場を京都教会に移し、オンラインによる配信も行いました。この式典も初めに平和の祈りを捧げた後、杉谷義恭幹事長が主催者を代表し挨拶を行い、「青年の役割は大きく、青年宗教者の可能性を突き詰めていきたい」と抱負を述べました。

その後、「50年の歩み」と題した映像を上映し、青年部会の発足から今日までの歴史を振り返りました。続いて、戸松義晴 WCRP 日本委員会理事長、三宅光雄 WCRP 日本委員会青年部会第5代幹事長、早水研 日本ユニセフ協会専務理事が祝辞を述べられました。

戸松師は青年部会の実績を称え、2021年に発表された「アジェンダ2030」にも触れ、「それに示されている鮮やかなビジョンに向かって、青年部会が今後もさらに幅広く一層の活躍を期待している」と結ばれました。

三宅師は祖父が庭野開祖と一緒に役を務めたと述べ、自身が WCRP で形成されたと言っても過言ではないと吐露されました。その中で、「宗教青年にとって

一番大事なものは祈りであり、それは行動が伴わなくてはならない」と述べ、「正しい祈りと正しい行動の中から友情が生まれる」と自身の経験も踏まえて話されました。最後に「青年部会100周年の時には、この会場の中から祝辞を述べられている方がおられるに違いない」と締めくくられました。

早水氏は日頃からのユニセフ活動への支援に感謝しながら、世界の子供たちに起きている問題は現在の大人の責任であることを訴えました。また、宗教の垣根を越えて実施されたハンドインハンド募金や開発途上国の自然災害による子供の被害についての報告も行い、「この地球は先祖から譲り受けたものではない。未来の子どもたちから借りているもの」という言葉を紹介されました。

その後、レンツ・アルガオ氏(アジア太平洋諸宗教青年ネットワーク議長)が国際青年委員会の紹介を行い、第2部の記念式典は閉会しました。



休憩後は第3部のシンポジウムが行われ、基調発題に小堀光實 天台宗三千院門跡 門主が「本音を語れる出会いは自他を育てる」をテーマに講演を行いました。5月10日に『G7 広島サミット宗教者による祈りとシンポジウム』にオンラインで参加したことに触れ、「同じ時間を共有できたこと、宗教者からの提言をまとめられたことに嬉しさを感じた」と述べられました。「WCRP に縁があったのは40歳代の壮年の頃であり、その行動力に刺激を頂き、比叡山も負けてられないと思った」と述懐。また「宗教とは心の支え。いわば一本の杖。身体を支える杖と同じ。よりよい生活の支えになるのが宗教。杖を強制的に使えと渡すから世の中を騒がすことになる」と述べ、「杖は自分で選んで、自分で得ることが大事。平和を目指す杖を共有する青年会としての使命を自覚して頂きたい」と期待を寄せられました。

令和5年、私たちは「日々感謝 にこにこ元気に出会いたい ありのままの私から」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。 <https://rkk-kyoto.jp/>